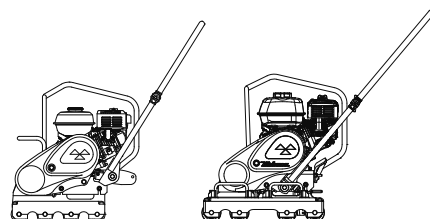




ブロックプレート

MVB-85H
MVB-152H



取扱説明書

ja

三笠製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用前に本書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に保管してご利用ください。



<http://www.mikasas.com>

401-04401



目 次

1	はじめに	1
2	製品概要	1
3	警告サイン	2
4	安全のための注意事項	2
	4.1 一般的な注意事項	2
	4.2 給油中の注意事項	2
	4.3 使用場所、換気に関する注意事項	3
	4.4 作業前の注意事項	3
	4.5 作業中の注意事項	3
	4.6 吊り上げ作業時の注意事項	3
	4.7 運搬・保管に関する注意事項	4
	4.8 整備上の注意事項	4
	4.9 ラベルの取付位置	5
	4.10 警告ラベルの絵文字説明	5
5	仕様	6
6	外観図	7
	6.1 外観寸法図	7
	6.2 コントロール装置位置及び装置名称	8
7	運転前点検	9
	7.1 エンジンオイル	9
	7.2 起振体オイル	9
	7.3 Vベルト	9
	7.4 中折れハンドル	10
	7.5 駐車ブレーキ (MVB-152H)	10
	7.6 ゴムロール	10
	7.7 燃料	10
8	運転	11
	8.1 始動	11
	8.2 運転	12
9	停止	12
10	運搬	13
	10.1 積み下ろし	13
	10.2 運送	13
11	保管	13
12	定期点検	14
	12.1 各部点検スケジュール表	14
	12.2 点検作業内容	14
13	トラブルシューティング	15
	13.1 エンジン	15
	13.2 本体	15

1. はじめに

- この取扱説明書は、ブロックプレートの正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて記載してあります。本機の優れた性能を生かし、お仕事の能率を上げ効果的な作業を進める為に、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
- お読みになった後も必ずお手元に保管し、分からない事があった時には取り出してお読みください。
- エンジンの取扱に関しては、別途エンジン取扱説明書を参照してください。
- 補修部品、パーツリスト、サービスマニュアル及び修理に関しては、販売店・当社各営業所もしくは三笠部品サービスセンターにお問い合わせ下さい。なお、パーツリストは当社ホームページ <http://www.mikasas.com/> の三笠WEBパーツリストでも公開しております。是非ご利用ください。

この取扱説明書に記載されているイラストが、設計変更等により一部実機と異なる場合があります。

2. 製品概要

用 途

歩道、公園、広場等の路面に敷き詰めたインターロックブロックの表面の凹凸を機体の重量と振動で平に仕上げるためのプレートコンパクターです。4本の硬質ゴムロールが転がりながらインターロックブロックに振動を伝え表面の均しを行なうので、インターロックブロックの表面を傷つけ難く機体の操作も楽に行なえます。インターロックブロックは一個のブロックに2本のロールが乗るサイズが適当です。

誤用途・ご使用の警告

敷き詰めたインターロックブロックの表面を平に均す用途以外の作業に使用してはいけません。急傾斜地での作業は万一手を離れた場合、機体暴走の危険がありますので使用してはいけません。敷き均しを早める為、機体の上に重しを載せて作業をしてはいけません。機体を破損させる恐れがあると共に、機体のバランスが崩れ重しが落下飛散し思わぬ危険の恐れがあります。人を乗せて作業をしてはいけません。身体が大きな振動を受けると共にバランスを崩しロールに挟まれたり、踏まれたりして思わぬ怪我を受ける危険があります。一個のインターロックブロックが大き過ぎたり重過ぎる場合又は、十分に締固まった路面での運転は機体の振動が大きくなり、機体の損傷を早めると共にハンドル手許の振動も大きくなり長時間の作業は振動病の危険があります。

構 造

エンジンベースの上面は、遠心式クラッチが出力軸に付いたエンジン、ハンドル、ベルトカバー及びガードフックを固定して、機体上部が構成されています。機体下部は、鋳物製フレームの前部上側に起振体が、下部に4本のゴムロールが回転自在に取付けられています。機体上部と機体下部は4個の防振ゴムで連結されており、機体上部の遠心式クラッチと機体下部の起振体のプーリー間は、Vベルトが動力を伝達しています。起振体は、Vプーリーが取付けられた振子軸に、偏芯振子がベアリングを介して回転自在に取付けられています。

動力伝達

原動機は4サイクル単気筒空冷ガソリンエンジンです。エンジンの出力軸にはVプーリー付き遠心式クラッチが取付けられています。エンジンのスロットルレバーでエンジン回転数を上げることでクラッチが繋がりVベルトを介して機体下部の起振体のVプーリーを回転させると共に、エンジンの回転数を所定の回転数に変換し偏芯振子を回転させ振動を発生させます。起振体から発生した振動はゴムロールに伝わり、インターロックブロックを振動させます。

3. 警告サイン

本取扱説明書および機械に貼付けてあるラベルの  マークは警告サインです。安全上、必ず厳守してください。

	人体に対する危険がある場合
 危険	指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険が極めて高い場合
 警告	指示を守らないと、死亡または重大な傷害事故が生じる危険があり得る場合
 注意	指示を守らないと、怪我や傷害事故が生じる可能性がある場合
注意	指示を守らないと、物的な損害が発生する可能性がある場合

4. 安全のための注意事項

4.1 一般的な注意事項

警告

- こんな時は作業をしない。
 - 過労や病気などで体調が悪いとき。
 - 医薬品や薬物を服用したとき。
 - 飲酒をしたとき。

注意

- 取扱説明書を良くお読み頂き、正しい取扱で安全に作業を行ってください。
- エンジンの取扱は別紙エンジン取扱説明書を参照してください。
- 機械の構造を充分理解してください。
- 作業を安全に行うために、防護具(ヘルメット、ゴーグル、安全靴、耳栓等)を着用し、適切な作業服で作業してください。
- 常に機械を点検し、正常であることを確認してから運転してください。
- 機体の貼付銘板(操作方法・警告銘板等)は安全を守るために非常に重要です。機体を清掃し、常に読みやすい状態を保ってください。読み取りにくくなった場合は、新しい銘板に交換してください。
- 幼児等が触れると大変危険です。保管方法、保管場所には充分注意してください。
- 整備する場合は必ずエンジンを停止させてから行ってください。
- 三笠純正部品を使用しない場合や、改造及び修正を加える事で発生した如何なる事故・故障に関して、当社は一切責任を負いません。



4.2 給油中の注意事項

危険

- 燃料を給油する時
 - 必ず換気の良い場所で行ってください。
 - 必ずエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから給油してください。
 - 周囲に可燃物の無い平坦な場所を選び、こぼさないように注意してください。こぼれたら良く拭き取ってください。
 - 給油中は絶対に火気を近付けないでください。(特にタバコを吸いながらの給油は厳禁)
- 燃料は口元一杯まで入れるとこぼれる可能性があり危険です。給油レベルはエンジン取扱説明書に規定された量を守ってください。
- 給油後は、タンクキャップをしっかりと締め込んでください。



4.3 使用場所、換気に関する注意事項

⚠ 危険

- 屋内、トンネル内等換気の悪い場所では使用しないでください。
エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれており、大変危険です。
- 火気のある傍での運転はしないでください。



4.4 作業前の注意事項

⚠ 注意

- 運転前点検を必ず行ってください。
- 各部分の締付具合を点検してください。振動でネジが緩んでいると思わぬ大きな故障の原因となります。ネジはしっかりと締め付けてください。

4.5 作業中の注意事項

⚠ 注意

- 長時間の使用は、はくろう病等に注意が必要です。本機は振動機械の為、長時間の運転は人体に悪影響を及ぼします。十分な間隔を空け使用してください。
- 本機を始動したり作業するときは、周囲の人や障害物に対して安全であることを確認してください。
- 常に足場に注意し、バランスを保てる無理の無い安定した姿勢で作業してください。
- 回転部(ベルトカバー内等)には、手や服などが巻き込まれないように十分注意してください。
- 運転中に本機の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合は直ちに作業を中止してください。
- エンジン本体、マフラー及びマフラーカバー等高温になる箇所は、運転直後の熱い時は触れないように注意してください。
- 本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止させて、本機を固定してください。
- 傾斜地での使用には充分ご注意ください。万一、動き出すと重大な事故を引き起こします。また、一時的に停止する場合でも、傾斜地に放置しないで平坦な場所を選び、本機を固定してください。



4.6 吊り上げ作業時の注意事項

クレーンによる積み下ろし作業は資格が必要です。クレーンの運転・玉掛け作業の資格がある人が行って下さい。

⚠ 危険

- 吊り上げ作業に対し、本機部品(特にフック・防振ゴム)の損傷やネジの緩み・脱落が無く安全である事を確認してください。
- 吊り上げ作業時はエンジンを停止させ燃料コックを閉じてください。
- 強度の充分なワイヤーロープ等を使用してください。
- 吊り上げ作業は一点吊りフックのみ使用し、その他の場所(ハンドル等)での吊り上げ作業はしないでください。
- 本機を吊り上げた際、下には絶対に人や動物を入れないでください。
- 安全の為、必要以上の高さには吊り上げないでください。



4.7 運搬・保管に関する注意事項

警告

- 運搬時はエンジンを停止させ、燃料コックを閉じてください。
- エンジン及び本機がよく冷えてから運搬してください。
- 運搬時は必ず燃料を抜いてください。
- 運搬や保管時は本機が動いたり、倒れたりしないようしっかりと固定してください。



4.8 整備上の注意事項

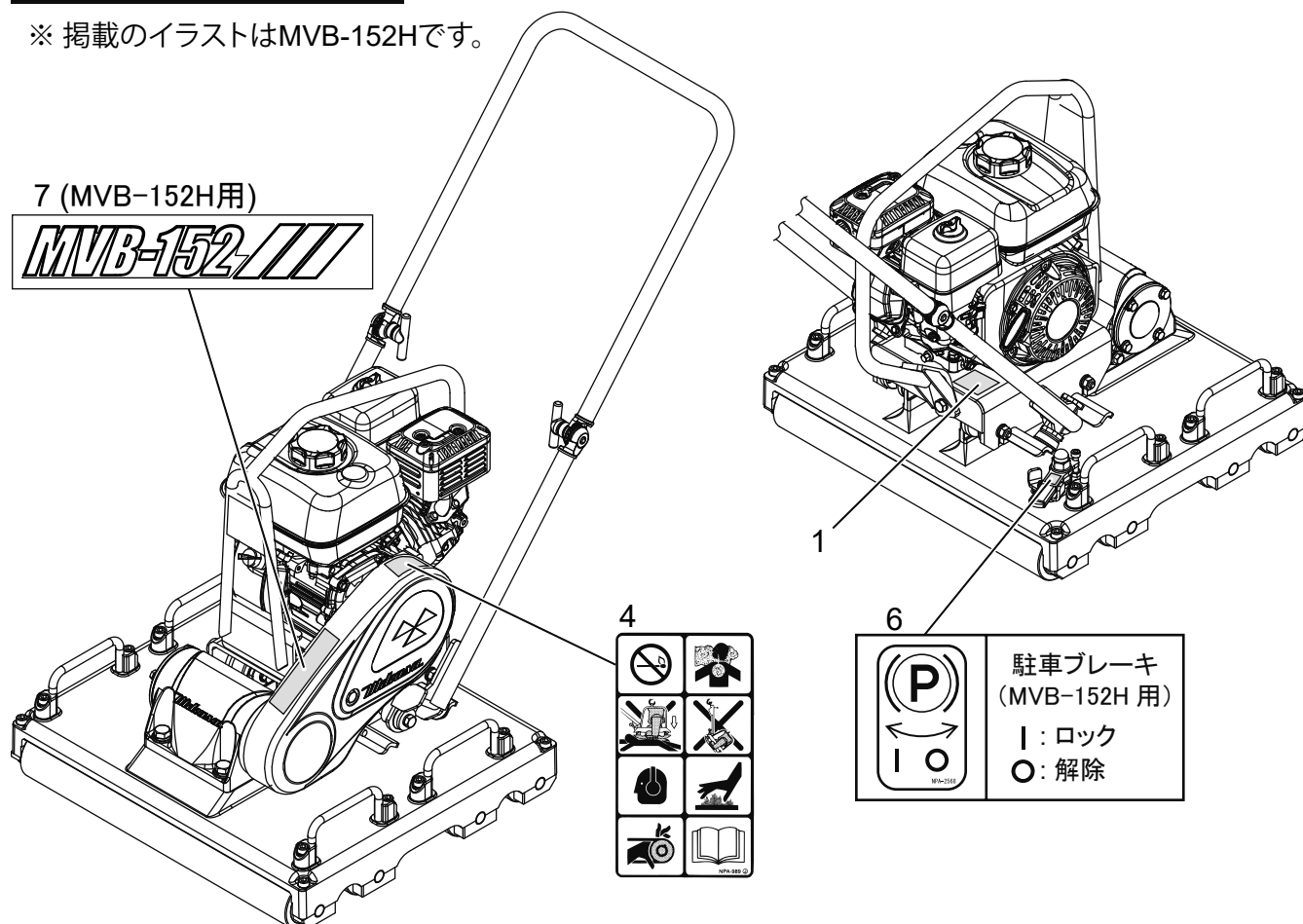
注意

- 安全を確保し、本機の性能を維持する為に、適切な整備が必要です。本機の状態を充分留意し、良好な状態を維持してください。特に、ゴムロール関連部品やリフティング関連部品の不適切な整備は重大事故の原因となります。
- 本機の温度が下がってから作業を行ってください。特にマフラーは高温になり、火傷をするおそれがあります。またエンジンやエンジンオイル、起振体等も熱くなりますので、火傷をしないよう充分注意してください。
- 点検調整は、必ずエンジンが停止した状態で行ってください。回転部に巻き込まれ、重大な傷害を負う危険性があります。
- 整備終了後、保安部品の取付及び安全性の確認を行ってください。特に、ボルト・ナットの点検は充分行ってください。
- 分解を伴う整備を行う場合は、必ず整備解説書を参照し、安全に作業を行ってください。



4.9 ラベルの取付位置

※ 掲載のイラストはMVB-152Hです。



図番号	部品番号	名称	枚数	備考
1	—	銘板, 製番	1	
4	9202-09890	銘板／取扱注意／絵文字／MVH-R60／	1	
6	9202-25680	銘板, 駐車ブレーキ操作／MVB-152	1	MVB-152H
7	9202-25580	銘板／MVB-152／緑	1	MVB-152H

4.10 警告ラベルの絵文字説明



火気厳禁

本機に火気を近づけないこと。



排気ガス吸引注意

排気ガスによる中毒の恐れがあるので換気の悪い場所で運転しない。



落下危険

吊り上げた機体の下に入らないこと。



吊り上げ禁止

吊りフック以外で吊り上げしないこと。



騒音注意

運転時耳栓装着のこと。



高温危険

火傷の恐れがあるのでマフラー等に触れないこと。



回転部接触禁止

運転中回転部に近づかないこと。



取説熟読

運転前に必ず取扱説明書を熟読し、本機を十分に理解すること。

5. 仕様

型 式		MVB-85H	MVB-152H
機 械 質 量	kg	90	150
機 体 寸 法			
全 長	mm	890	1038
全 幅	mm	376	612
全高(ハンドル)	mm	918	950
ゴムロール寸法			
ロ ー ル 長	mm	320	556
ロ ー ル 径	mm	73	86
ロ ー ル 数	本	4	4
振 動 数	Hz (v.p.m)	93 (5600)	97 (5800)
遠 心 力	kN (kgf)	10.1 (1030)	15.2 (1550)
起振体オイル	グレード	SAE10W-30	SAE10W-30
起振体オイル量	cc	140	140
エ ン ジ ン			
メ ー カ ー		ホンダ	ホンダ
型 式		GX120	GX160
種 類		空冷 4 サイクルガソリンエンジン	空冷 4 サイクルガソリンエンジン
排 気 量	cc	118	163
最 高 出 力		2.6kW (3.5PS)/3600rpm	3.6kW (4.9PS)/3600rpm
エンジンセット回転数	rpm	3600	3600
燃 料		無鉛ガソリン	無鉛ガソリン
燃料タンク容量	L	2.0	3.1
エンジンオイル	グレード	API 分類 SE 級以上 SAE10W30	API 分類 SE 級以上 SAE10W30
エンジンオイル量	L	0.56	0.58
始 動 方 式		リコイルスターター	リコイルスターター

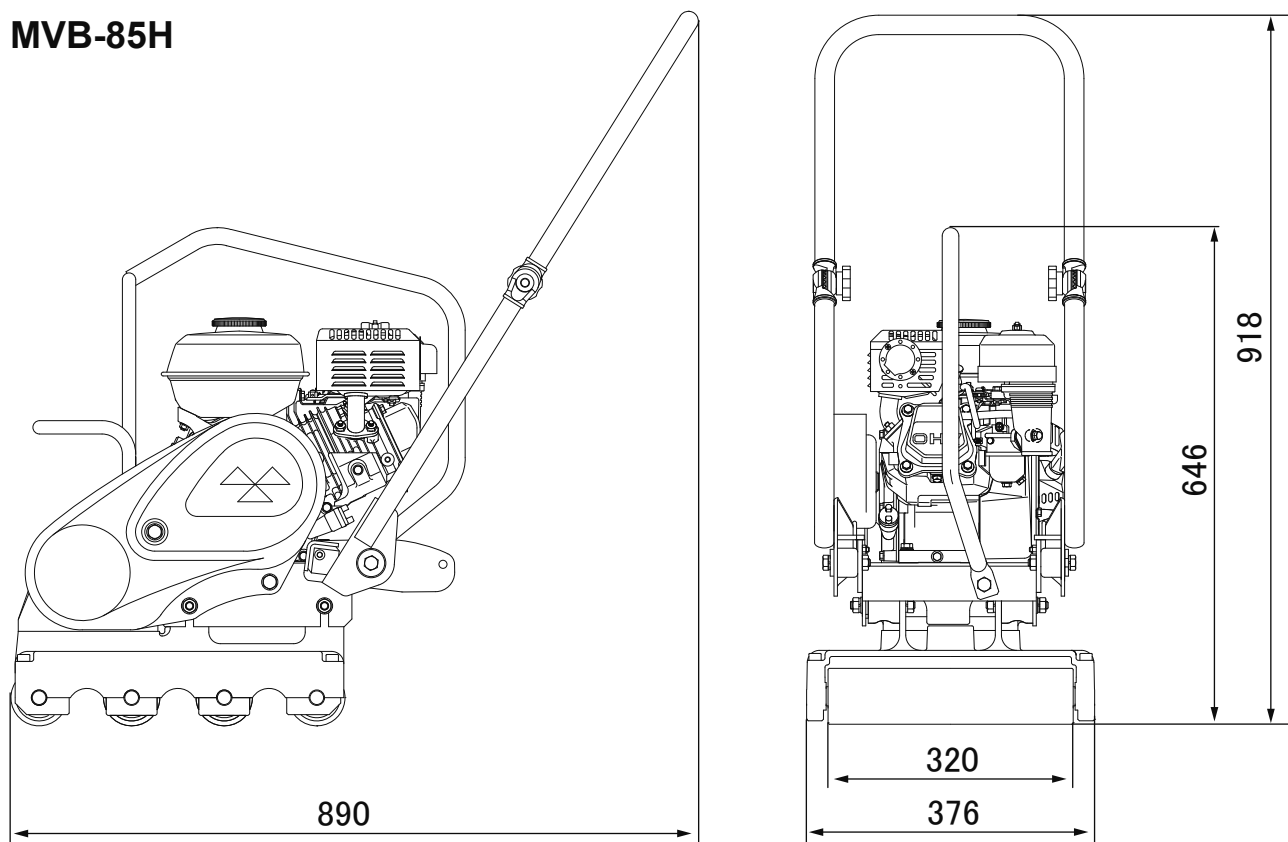
※ 単位は、計量法の改正に従い S I 単位を使用しています。

() 内に、従来単位での値を併記しています。

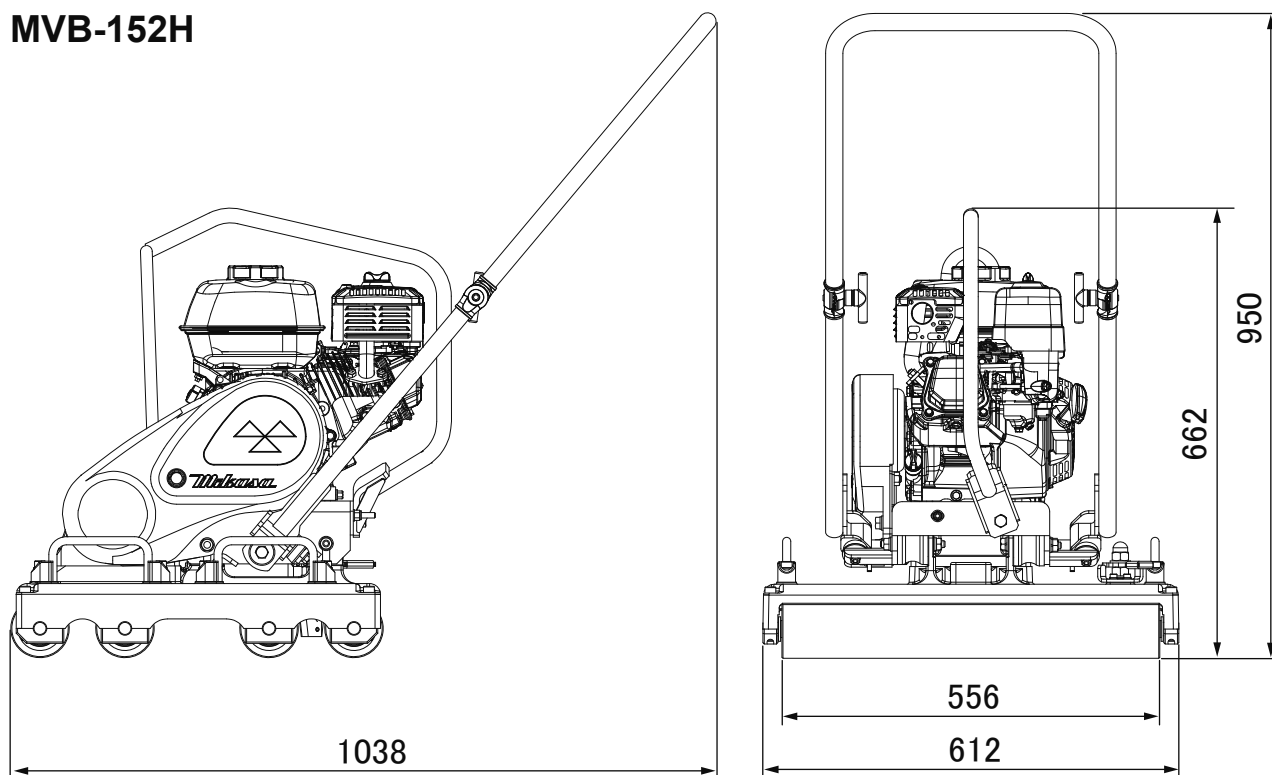
6. 外観図

6.1 外観寸法図 (単位:mm)

MVB-85H

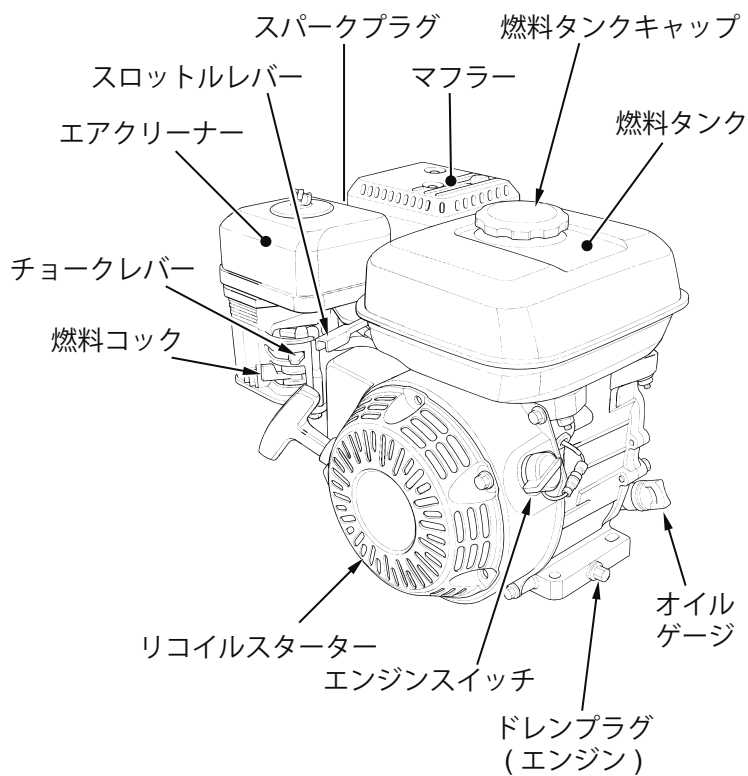
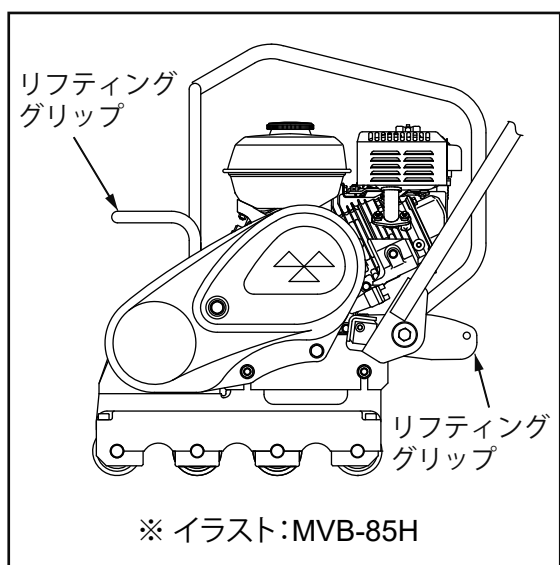
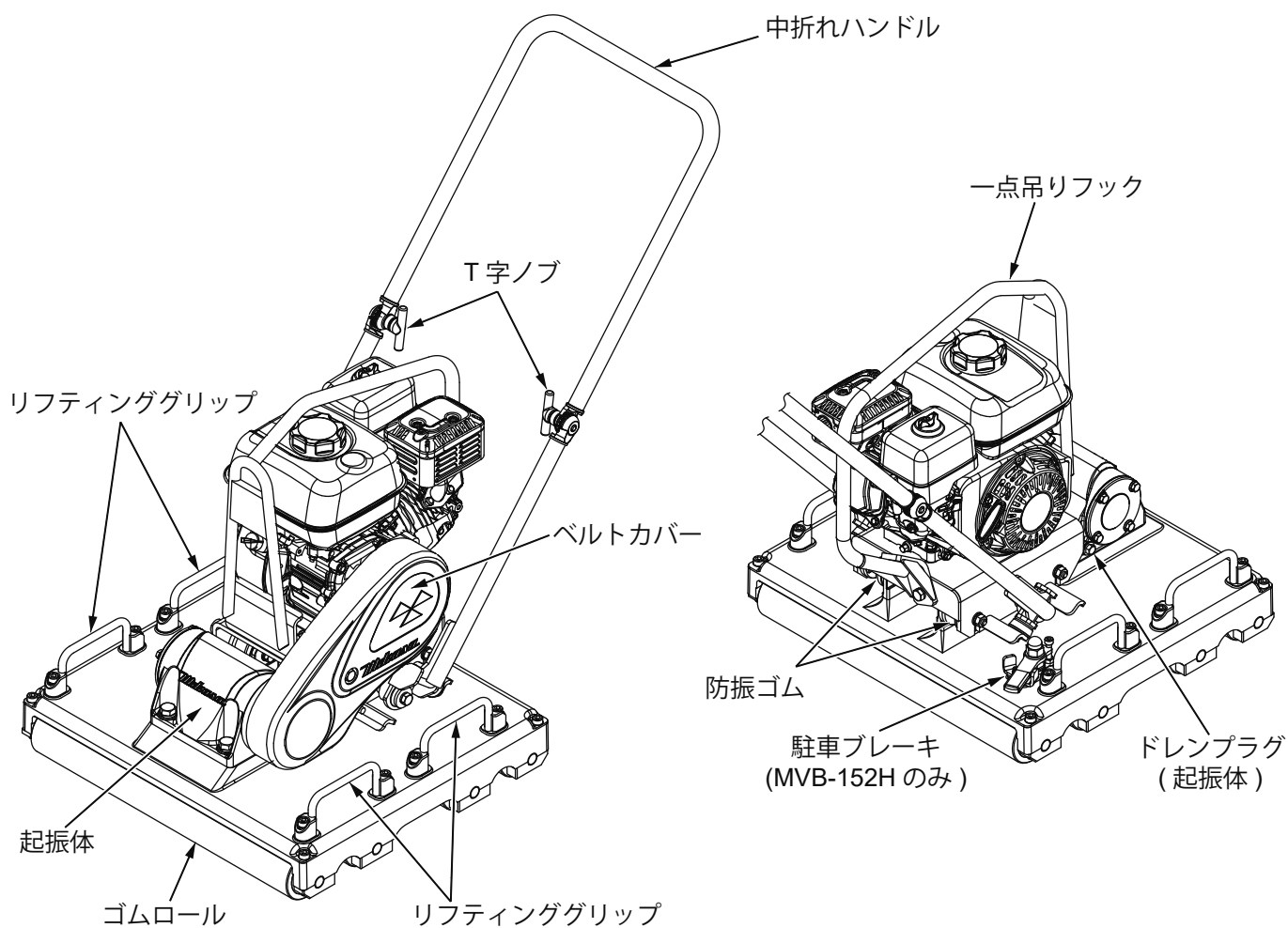


MVB-152H



6.2 各部装置位置および名称

※ 掲載のイラストはMVB-152Hです。



7. 運転前点検

警告

- 点検する時は必ずエンジンを停止させた状態で行ってください。回転部に巻き込まれますと、重大な傷害を負う危険性があります。
- 本機の温度が下がってから点検作業を行ってください。特にマフラーは高温になり、火傷をする恐れがあります。
- 平らで安定した場所で、必ず機体を水平にして動かないように固定してから点検作業を行ってください。



作業前各部点検表

点検箇所	点検項目	点検箇所	点検項目
外観	亀裂、変形、摩耗、破損、汚れ	ボルト、ナット類	ゆるみ、脱落
エアクリーナー	汚れ、つまり	エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ
起振体オイル	漏れ、油量、汚れ	中折れハンドル	作動、亀裂、変形、破損
Vベルト	摩耗、変形、亀裂、張り	駐車ブレーキ	作動
ゴムロール	摩耗、変形、亀裂、回転	燃料タンク関係	漏れ、量、汚れ、亀裂、変形

エンジン各部の点検詳細は、別冊のエンジン取扱説明書を参照してください。

- 作業前の点検箇所の詳細は14ページに記載されている「各部点検スケジュール表」を参照してください。
- 各部を綺麗に清掃し、泥・埃・汚れの無いように手入れをしてください。
特にゴムロール、エンジンの冷却風吸入口、気化器及びエアクリーナーは清掃してください。
- 各部の締付ネジが緩んでいないか確認してください。振動のためネジが緩んでいると思わぬ事故や故障の原因となります。
- 外観（ガードフック、エンジン、ベース、ハンドル、ベルトカバー、起振体、防振ゴム等）を点検し、破損が無いか確認してください。

7.1 エンジンオイル

1. エンジンを水平にしてオイルゲージを外し、注入口の口元までオイルがあるか確認してください。不足している場合は補給してください。
- 推奨オイル： API分類SE級以上SAE10W-30
 - オイル容量： GX120 (0.56L)、GX160 (0.58L)

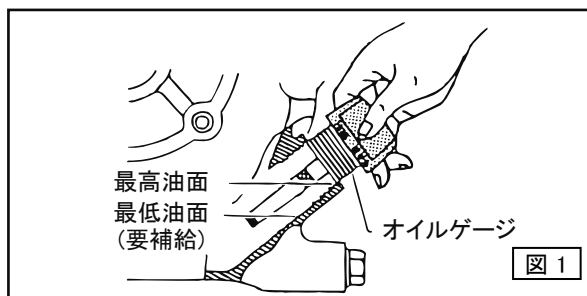


図 1

7.2 起振体オイル

1. 本機を水平にして起振体のドレンプラグを外し、起振体オイルが口元まで入っているか確認してください。(図2)
- 起振体オイル： SAE10W-30
 - オイル量： 140cc

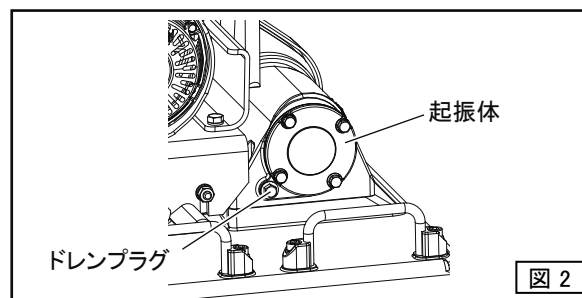


図 2

7.3 Vベルト

1. Vベルトに摩耗やクラック等のダメージが無いかを点検してください。
2. Vベルトの張り具合を点検してください。張りの具合は両軸の中間の所を強く指で押して10～15mm位たわむように張ってあれば正常です。Vベルトが緩んでいるとベルトがスリップしてエンジンの動力伝達が悪くなると共にベルトが発熱し、Vベルトの寿命も短くなります。(図3)

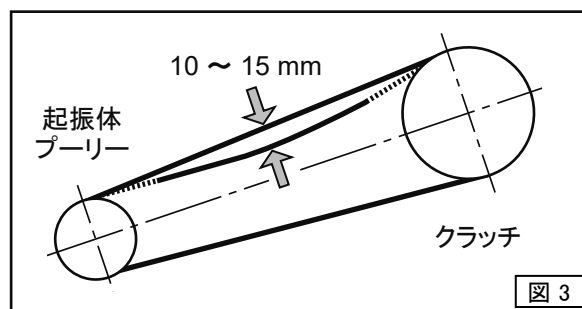
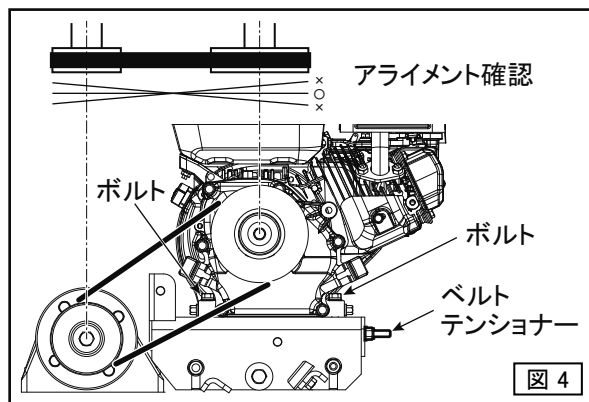


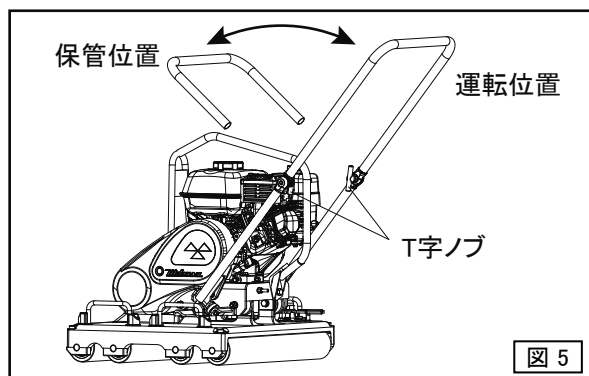
図 3

3. Vベルトが緩んでいる場合、張り具合を調整してください。
エンジン取付ボルトを4本ゆるめて、ベルトテンショナーで張り具合を調整します。Vベルトの張り具合調整後、Vベルトのアライメントを確認し、エンジン取付ボルトを締めてください。
(図4)



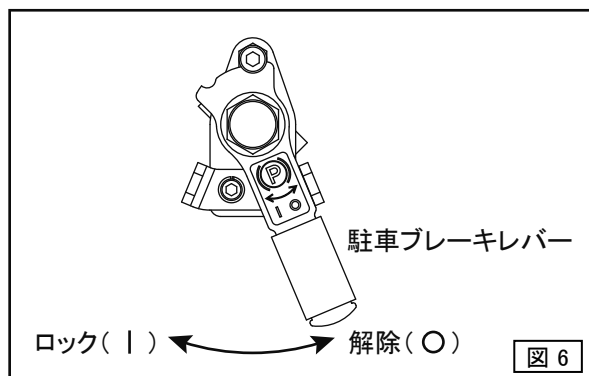
7.4 中折れハンドル

1. 中折れハンドルが保管位置、運転位置、任意の位置で固定出来ることを点検してください。ハンドルを固定する時、T字ノブをしっかりと締めてください。(図5)



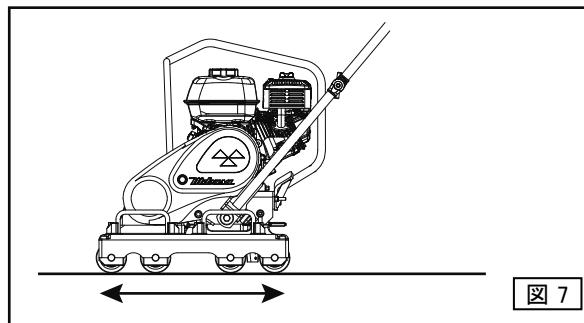
7.5 駐車ブレーキ (MVB-152H)

1. 駐車ブレーキが確実にロック・解除すること点検してください。(図6)
2. 駐車レバーを左に回すとロック(|)します。
3. 駐車レバーを右に回すと解除(O)します。



7.6 ゴムロール

1. 本機を前後に動かし、ゴムロールがスムーズに回転すること点検してください。(図7)

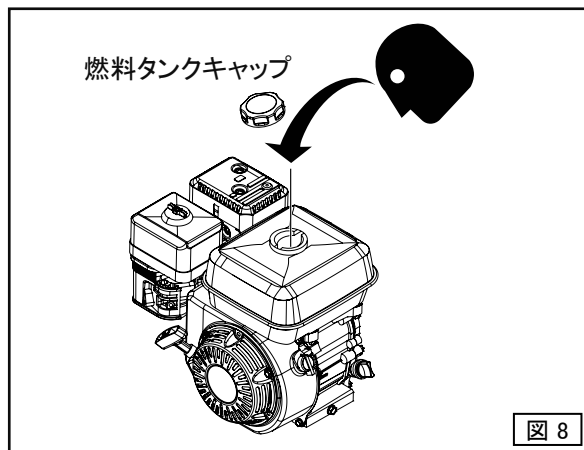


⚠ 注意

- ゴムロールにオイルやガソリンを付着させないでください。オイルやガソリンはゴムを膨張・劣化させます。
- オイルやガソリンが付着した場合、直ちに清掃してください。

7.7 燃料

1. エンジンを水平にし、ガソリンの量を確認してください。少ない場合は、給油位置限界を超えないように給油してください。
2. 給油の時、ストレーナーを使用してください。



⚠ 危険

- 給油の時、
- エンジンを停止してください。
 - 火気を近づけないでください。
 - 給油限界位置を超えないようにしてください。
 - 万一こぼれたときは、布などできれいにふき取ってください。

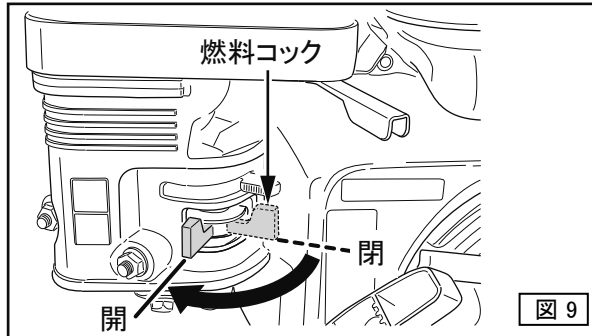
8. 運転

8.1 始動

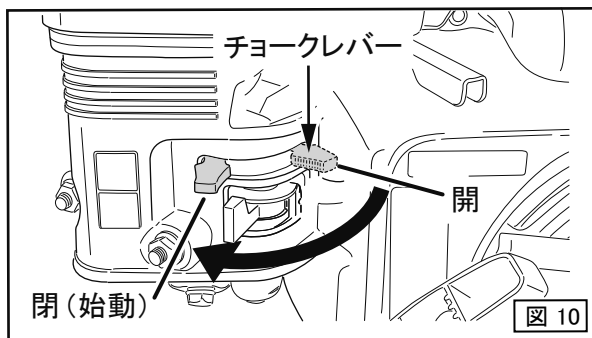
⚠ 危険

エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており大変危険です。換気が悪い所や屋内では使用しないでください。

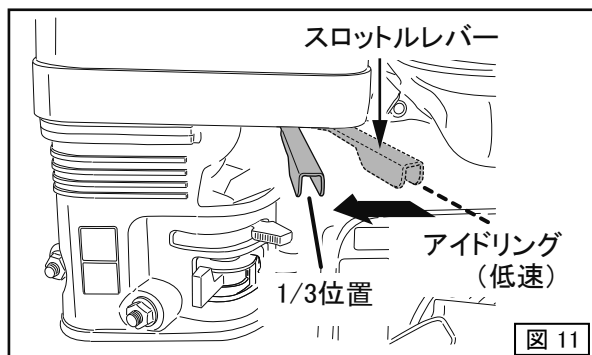
1. 中折れハンドルを運転位置にし、T字ノブをしっかり締めて、固定してください。
2. 燃料コックを開きます。(図9)



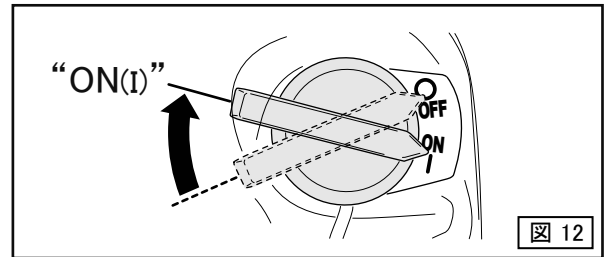
3. エンジンが冷えている時や始動しにくい場合は、チョークレバーを閉じてください。エンジンが暖まっている時は操作不要です。(図10)



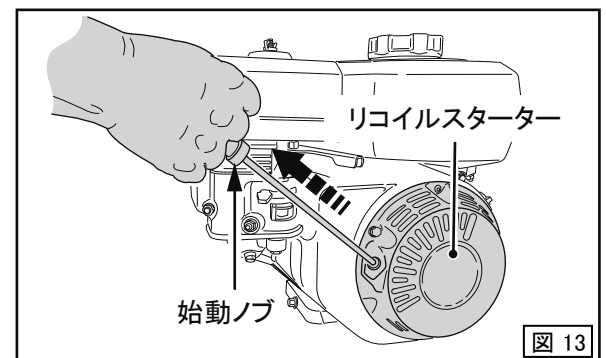
4. スロットルレバーを全開側へ約1/3開いた位置にします。(図11)



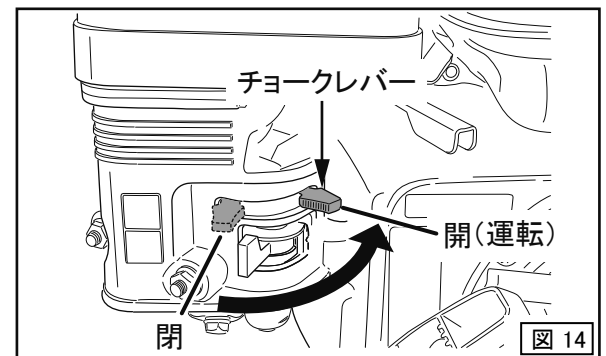
5. エンジンスイッチを“ON(I)”の位置にします。(図12)



6. リコイルスターターの始動ノブを握り、少し引くと重くなるところ(圧縮点)があります。そこから勢い良く引張ってください。この時、ロープを引張りすぎるとロープが切れたり抜けてしまう恐れがありますから注意してください。また、始動ノブは引いた状態で手を放さず、手で持ったままゆっくりと戻してください。(図13)



7. エンジンが始動したらすぐにスロットルレバーをアイドリング(低速)位置に戻し、エンジンの回転音を確認しながらチョークレバーを徐々に戻し全開(運転)位置にします。(図14)



⚠ 注意

スロットルレバーを半開のままにすると、遠心クラッチがスリップした状態となり、遠心クラッチの故障の原因になるとともに、本機が異常振動を起こし危険です。エンジンが始動したらすぐにスロットルレバーをアイドリング(低速)位置に戻してください。

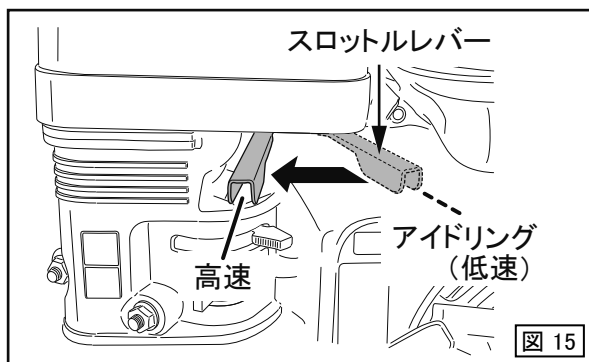
8. 始動後は、必ず2～3分アイドリング(低速)位置で暖機運転を行います。特に寒冷時には必ず実行してください。

8.2 運転

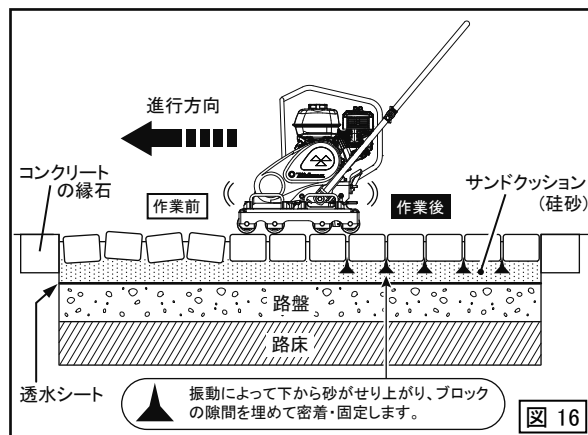
⚠ 危険

傾斜地での作業は大変危険です。安全に十分注意してください。

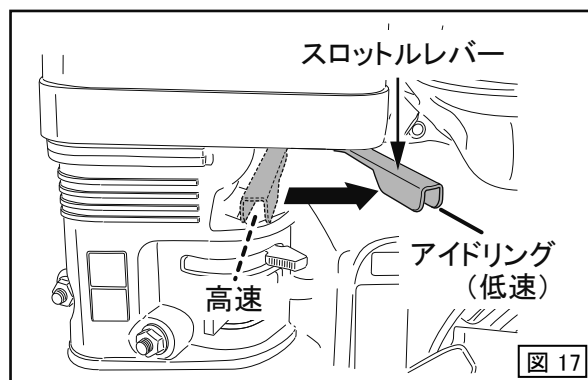
1. MVB-152Hの場合、駐車ブレーキが解除されていることを確認してください。
2. スロットルレバーを高速位置にすると本機は振動を始めます。スロットルレバーをゆっくり操作するとクラッチがスリップした状態になりますので、スロットルレバーはすばやく操作してください。(図15)



3. 並べたインターロッキングブロックが平坦になるように何度か前後進を繰り返します。振動によって砂（サンドクッション）がせり上がり、ブロックの隙間を埋めて密着・固定します。(図16)



4. 運転を止める時は、スロットルレバーをすばやくアイドリング（低速）位置へ戻してください。(図17)



⚠ 危険

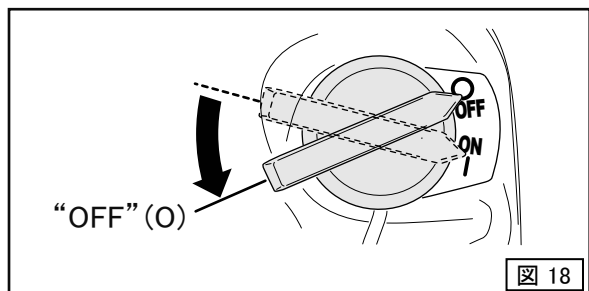
固い路面や作業済みの路面、また大き過ぎたり重過ぎるブロックの転圧作業は危険です。反動で振動が大きくなり機体の損傷を早めたり、手元の振動が大きくなり過ぎて危険な場合があります。

9. 停止

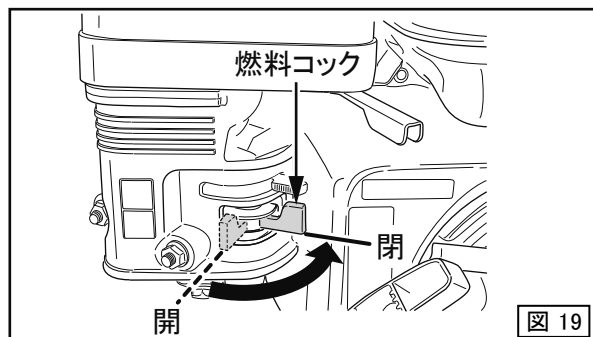
1. スロットルレバーをアイドリング（低速）位置にして、1～3分間運転しエンジン温度を下げてから、エンジンスイッチを“OFF(○)”側に回してください。(図18)

⚠ 危険

エンジンを高温の状態で停止させると、シリンダー内部の磨耗が早まり、エンジンの故障の原因となります。



2. 燃料コックのレバーを閉じてください。(図19)



⚠ 警告

- 機体から離れる場合は、エンジンを停止させゴムロールに輪留めをかけて機体が動かないことを確認してください。
- 停止後の機体は、傾斜地を避けて平坦な場所に置いてください。

10. 運搬

クレーンによる積み下ろし作業は、クレーンの運転・玉掛け作業の資格が必要です。

10.1 積み下ろし

⚠ 警告

- 吊フックの破損や各部のネジの緩みや脱落が無く安全である事を確認してください。
- 積み下ろし作業は必ずエンジンを停止させ、燃料コックを閉じてください。
- 吊フック以外の場所（ハンドル部など）での吊り上げは絶対に行わないでください。
- 強度が充分で、破損や劣化、型崩れの無いワイヤーロープを使用してください。
- 安全のために必要以上の高さには吊り上げないでください。また、吊り上げた機械の下には絶対に人や動物が入らないようにしてください。

1. 本機の積み下ろし作業は必ずクレーンで行ってください。
2. 積み下ろし作業時は必ず責任者を定め、責任者の指示に従って作業してください。
3. 本機を吊上げる場合は必ず吊フックを使用し、吊フック以外の場所（ハンドルやボディ等）で吊り上げないでください。（図20）

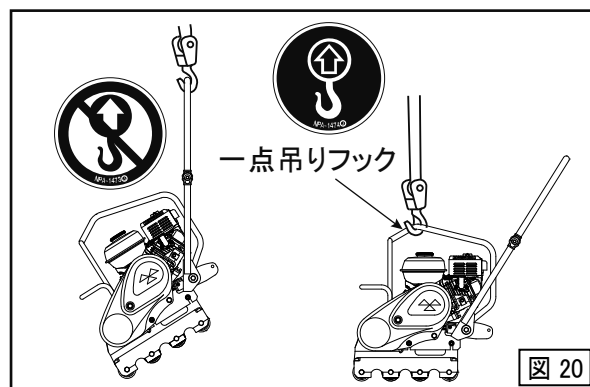


図 20

10.2 運送

⚠ 警告

- 運送は必ずエンジンを停止させ、燃料コックを閉じてください。
- 運送は必ず燃料を抜いてください。
- 運送時に本機が動いたり、倒れたりしないようしっかりと固定してください。
- MVB-152Hの場合、駐車ブレーキをかけてください。
- 雨天の運送は、本機に雨水がかからぬようカバーでおおってください。

11. 保管

1. 各部のゴミや泥を水洗いし、十分に乾燥させてください。
2. 直射日光や雨の当たらない、湿気の少ない場所で保管してください。
3. 平坦な場所に置き、本機が動かぬようしっかりと固定してください。
4. 本機にゴミやほこり、雨がかからぬようカバーをかけてください。
5. 屋外に放置せず、屋内で保管してください。

● 長期保管の準備と注意

1. 燃料タンク、燃料パイプ、キャブレターの燃料を抜き取ってください。
2. エンジンオイルの補給・交換を行ってください。
3. スパークプラグを外して、シリンダー内にエンジンオイルを2～3cc注入し、リコイルスターターを数回まわしてエンジンオイルを行き渡らせ、スパークプラグを取付け、リコイルスターターを引いて圧縮のあるところで止めて、保管してください。

12. 定期点検

12.1 各部点検スケジュール表

点検時期	点検箇所	点検項目	油脂類
毎日（作業前） 9 ページの 『7. 運転前点検』 を参照のこと。	外観（各部点検）	亀裂、変形、摩耗、破損、汚れ	
	燃料タンク関係	漏れ、量、汚れ、亀裂、変形	ガソリン
	エアクリーナー	汚れ、つまり	
	エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
	起振体オイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
	V ベルト	摩耗、変形、亀裂、張り	
	駐車ブレーキ（152H）	作動	
	ゴムロール	摩耗、変形、亀裂、回転	
	ボルト・ナット類	ゆるみ・脱落	
20 時間	エンジンオイル	初回のみ20時間で交換	エンジンオイル
100 時間毎	エンジンオイル	交換	エンジンオイル
	起振体オイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
200 時間毎	V ベルト	摩耗、変形、亀裂、張り	
	クラッチ	摩耗、傷、汚れ	
	起振体オイル	交換	エンジンオイル
2 年毎	燃料パイプ類	交換	
不定期	エアクリーナーエレメント	交換	

エンジン関係の点検及び整備につきましては、付属のエンジン取扱説明書を参照してください。

注）上記は標準状態での点検時間です。使用条件により内容が異なってきますので御注意ください。

12.2 点検作業内容

● 毎日の手入れ

- 各個所の泥、ホコリ、油等はきれいに掃除してください。エアクリーナーを点検してよごれがひどい場合は合せて掃除してください。また油漏れなどの有無にかかわらず各締付部は増締めをしてください。ロールについた泥や汚れはきれいに掃除してください。

- ガソリンやオイルが防振ゴムやゴムロールに付着した場合は、直ぐに清掃してください。付着したままに放置されるとゴム部が膨潤し、変形・劣化します。

● 一週間毎の手入れ（50時間毎）

- エアクリーナーの紙ろ過部を内側から圧縮空気を吹き付けるか、または軽く叩いて汚れを落としてください。汚れがひどい場合は新品のエアクリーナーに交換してください。
- 点火プラグを取りはずし掃除して火花間隔を0.5～0.6mmに調整します。

● 100時間毎の手入れ

- 初回のみ20時間で交換してください。
- エンジンが暖まっているうちにクランクケース内の古いオイルを完全に抜き取り、新しいオイルと交換してください。エンジン停止直後は、オイル・機体が熱くなっています。火傷をしない温度になっている事を確認した後に交換作業を行ってください。

● 200時間毎の手入れ

1. 起振体オイル

起振体のオイルを排出し、新しいオイルと交換してください。（9ページ、図2）

2. Vベルト

ベルトカバーを外し、Vベルトの張り具合を点検してください。張りの具合は両軸の中間の所を強く指で押して10～15mm位たわむように張ってあれば正常です。（9ページ、図3）

3. クラッチ

クラッチの点検は、Vベルトの点検と同時に行ってください。クラッチドラムの焼き付き、クラッチシューやV溝の摩耗・損傷を目視で点検します。V溝が汚れている場合は清掃してください。

⚠ 注意

エンジン高速運転中、振動が弱かったり、振動しない場合は、Vベルトもしくはクラッチがスリップしています。Vベルト・クラッチの点検・交換を行ってください。

● 2年毎の手入れ

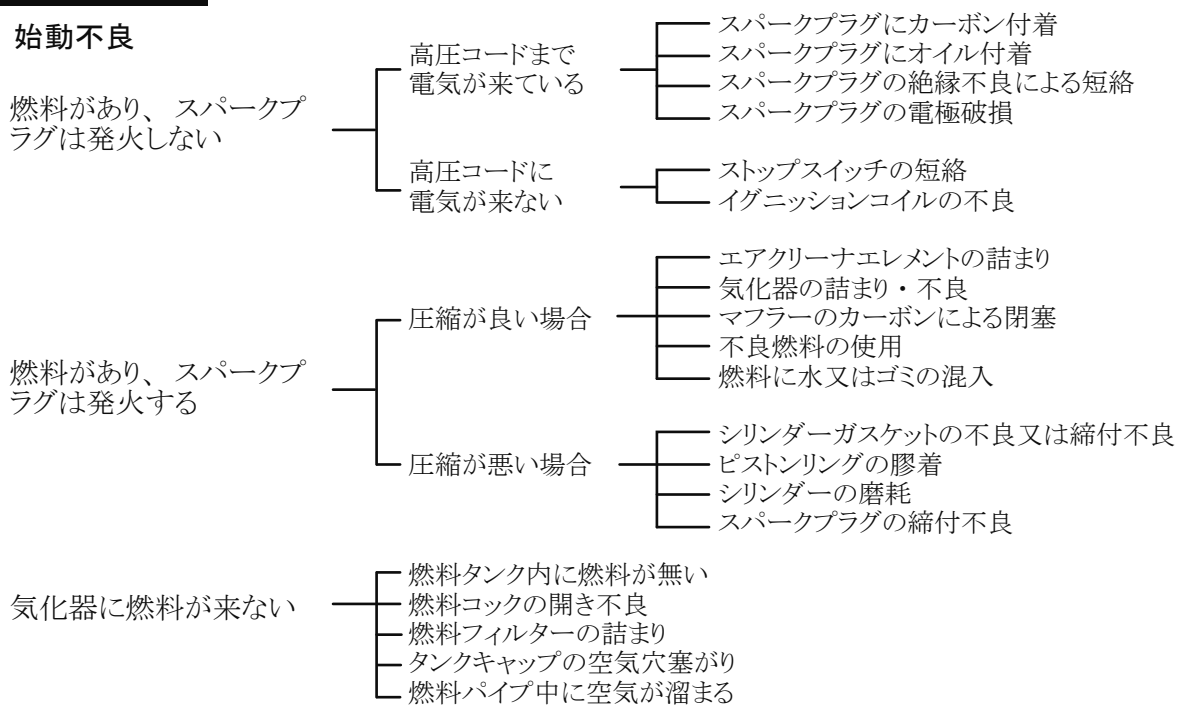
- 燃料パイプは、2年で交換してください。また、点検時劣化などで漏れや破損のあるものは2年を待たずに交換してください。

部品やパーツリストおよび修理に関しては販売店もしくは三笠部品サービスセンターに御問い合わせください。

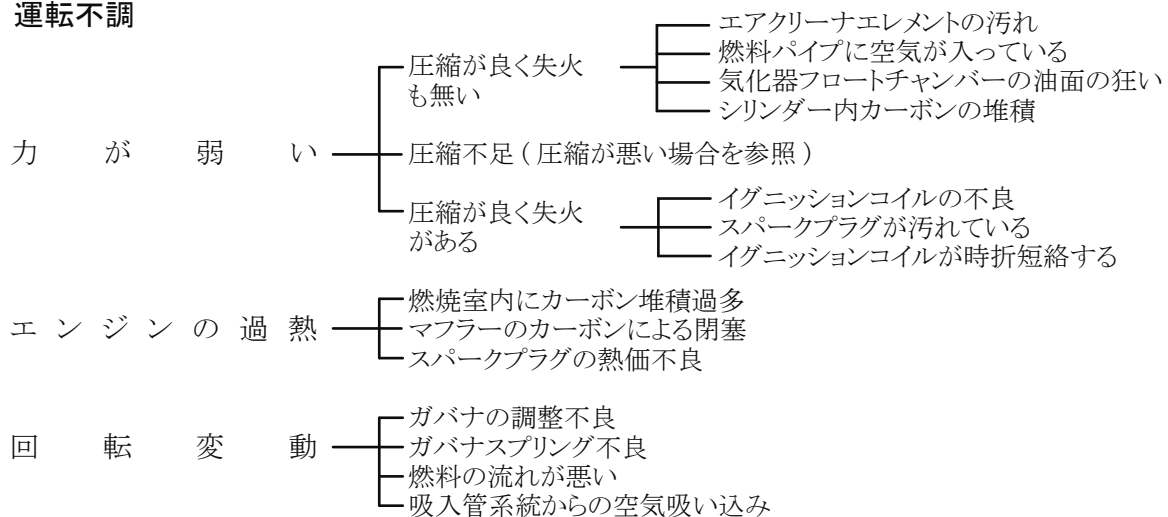
13. トラブルシューティング

13.1 エンジン

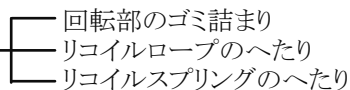
1) 始動不良



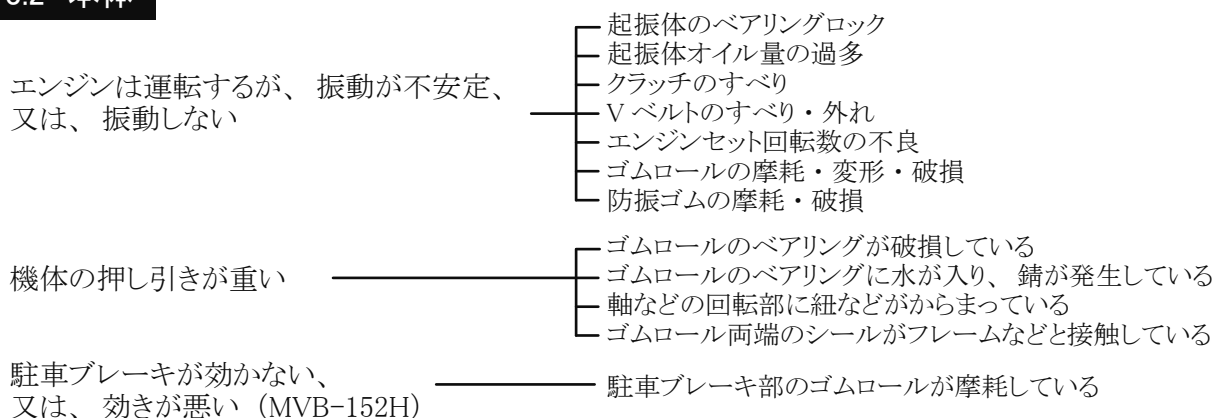
2) 運転不調



3) リコイルスターターの動きが悪い



13.2 本体



Mikasa

MIKASA SANGYO CO., LTD.

1-4-3, Kanda-Sarugakucho, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-0064, Japan

三笠産業株式会社

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町1-4-3

修理に関するお問合せ

TEL 048-734-2402 FAX 048-734-7678

部品に関するお問合せ

TEL 048-734-2401 FAX 048-736-6787

その他のお問合せ

info@mikasas.com

Web パーツリスト

<https://www.mikasas.info/MIKASA/JA/>



PRINTED IN JAPAN